

学校規模適正化について

1 学校の適正規模に関する考え方

「高岡市立学校規模適正化の基本計画」（平成 27 年 12 月）において、適正規模の考え方については、下記のとおり示している。

(1) 学級数について

本市のこれまでの学校規模適正化の取組みにおける高岡市立適正規模・適性配置検討委員会からの報告や市内 8 地区協議会における協議、ならびに前述の一定規模の必要性を踏まえて、望ましい学級数については以下のように考えます。

小学校 12～18 学級（1 学年 2～3 学級）

「小学校は、全学年でクラス替えやグループ学習などの充実を図ることができ、学年に複数の教員が配置できる 12 学級以上で、学校施設の使用に支障をきたさず、教員と児童の関わりを良好に保つことができる 18 学級以下が望ましい」

中学校 9～18 学級（1 学年 3～6 学級）

「中学校は、小学校の考え方とほぼ同じであるが、中学校では教科担任制となるため教員配置の面から 5 教科（国語、数学、理科、社会、英語）に複数の教員が配置でき、全教科専任教員が配置できる 9 学級以上が望ましい」

(2) 児童生徒数について

学級数は同じでも、各学級の児童生徒数や学校全体の児童生徒数には大きな幅があります。望ましい学級数と併せて、児童生徒数も考慮する必要がありますが、前記①の学級数を基に、現行の学級編成基準で平均の児童生徒数を試算すると次のとおりとなります。

小学校の児童数の試算 350～580 人程度

中学校の生徒数の試算 290～630 人程度

※小学校：1・2 年生 35 人、3～6 学年 40 人編成、中学校：1 年生 35 人（選択制）、2・3 年生 40 人編成で、平均児童生徒数を試算したもの

2 統合の取組み

「高岡市立学校の規模適正化地区選定計画【第 1 次】」（平成 27 年 12 月）において、五位中学校区で統合の取組みについて進めていくことを示している。

統合の取組みを進めていく地区（学校）の選定

統合に取り組む地区（学校）

五位中学校区内地区（東五位、千鳥丘、石堤小）とする。

選定理由

- ① 複式学級のある石堤小の規模適正化を最優先に取り組む必要があること。
- ② 将来的に東五位小、千鳥丘小は小規模校となることが予想されるので、統合によって規模適正化が図られること。
- ③ 統合後の校区は、一部徒歩では難しい地区もあるが、まとまりのある広さであること。
- ④ 千鳥丘小校舎の経過年数が 50 年以上であり、いずれ改築が必要となること。
- ⑤ 中保地区の通学区域の弾力化に伴う複雑な地区事情の解消を図れること。
- ⑥ 中学校区が同一で、自治会同士のとまりがあること。
- ⑦ 地区協議会の意見書から前向きな意見があったこと。